

## 第3回 加西市スマートシティ推進会議

日時 令和6年12月9日(月)14:00~

場所 加西市役所1階多目的ホール

## (1) 前回ご意見と本会議の目的確認

## 議事(1)加西市の抱える課題整理での主な意見・提案

発言者	分野	意見・提案	対応の方向性
木南委員	全般	ビジョンとなる目指す姿がないと、理想と現実のギャップである課題が見えてこない。	ビジョンに向けたアプローチの中で議論
田畑委員	教育	課題のひとつにある、学校の選択肢の少なさや通学の不便さについては、学校が選べることでなく、多様な教育が受けられる選択肢が加西市には無いと理解している。	デジタルも活用した、多様な教育が受けられる選択肢が必要
蓬萊委員	教育	進学先は、近場では北条高校と農業高校になり選択肢が少ないと親同士では話している。市外への通学となると加西は住みにくいと感じる。	
東根委員	教育	学校でどういう教育が受けられるかが知りたい。豊かな自然の中で遠隔授業などデジタルを活用した質の高い教育が受けられるならとても良い。教育の情報を分かりやすく得られるようにしてもらいたい。	
岡田委員	健康・長寿	今もスタッフが足りておらず、10年後は介護施設には簡単には入れない時代になる。労働力の確保が重要。また、健康寿命に力を入れていく必要がある。	介護現場の労働力の確保や健康寿命延伸への取組が必要
岡田委員	健康・長寿	独居老人には、離れて暮らす親族にすぐに連絡が取れる対策が必要。今まで加西市に尽くしてこられた人が幸せに暮らしていける環境を創ってほしい。団塊ジュニアが加西市に帰ってくるような対策を考えてもらいたい。	加西に住む高齢者や、加西に戻りたい人が安心して暮らせる環境が必要

発言者	分野	意見・提案	対応の方向性
西村委員	人口増	子どもを増やしていく自然増の議論も必要。ITがあっても人がいなければ使えない。市外含めた広域での検討も必要。	人口の自然増に取り組む視点も必要
高井委員	農業	人材がないのは農業も同様だが、給与が少ないため。ロボットを使いながら給与を上げる仕組みを作ればよい。	ロボットも活用した生産性を上げる仕組みが必要

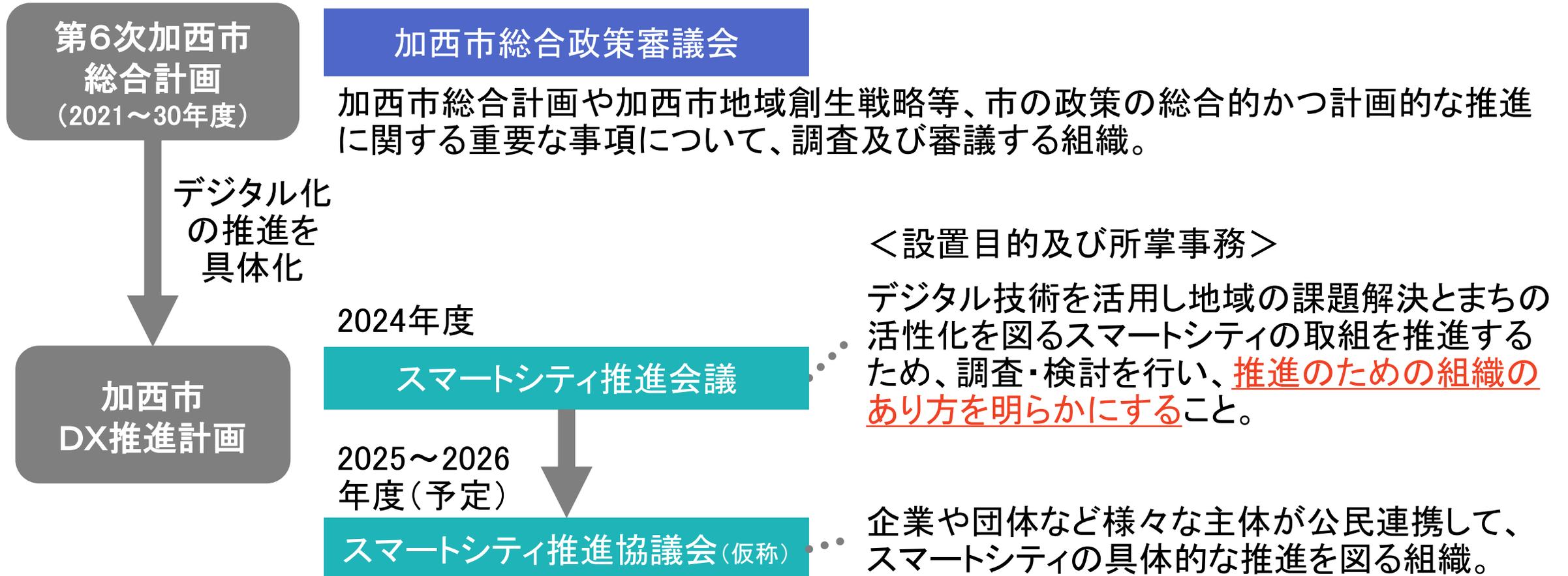
## 議事(2)加西市に相応しい展開方向での主な意見・提案

発言者	分野	意見・提案	対応の方向性
藤中委員	交通・物流	物を買ってデリバリーしてくれる次世代型コンビニという考え方のサービスが、家庭にあるタブレットで使えればよいと思う。買い物に行けない高齢者の住みづらさはこういうところにある。	買い物に行けない高齢者への新しい販売・配達方法の検討が必要
高井委員	農業	稼げる農業に挑戦している。農業は、儲からない、暑い、汚れるなどの固定概念化している考え方を払拭できれば人は集まると考えている。現在取り組んでいるデジタルを活用した農業を行政がPRすれば、若年層の苦手意識が解消されると考えている。	若年層に対する農業の固定概念の払拭と、伸びしろのある産業であることの周知が必要
高井委員	農業	田植え機など農機具を持たずにドローンなども使った直播きの稲作を実践している。また、メタンガスが出る水田をやめることで、Jクレジット制度を利用した販売も進めている。農業は伸びしろのある産業だと考えている。	

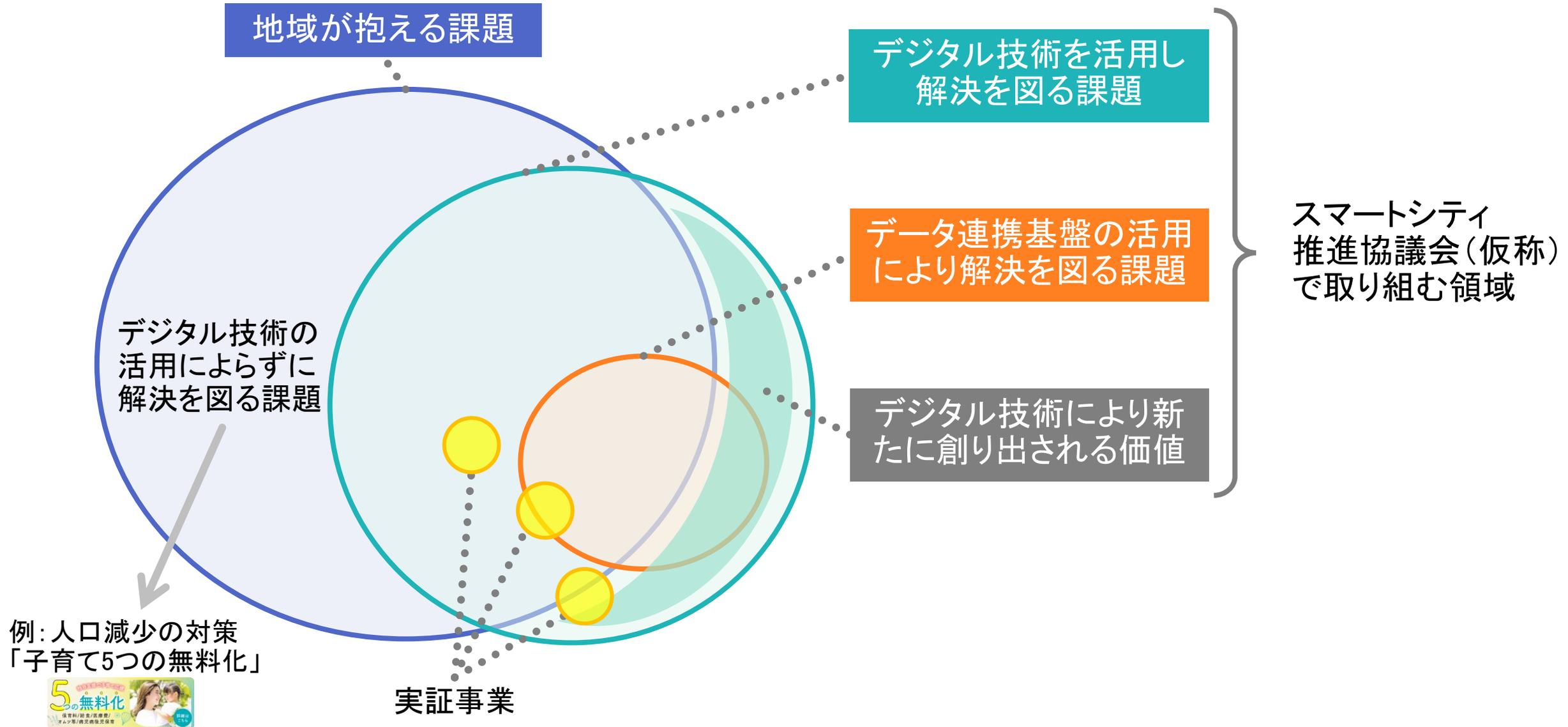
発言者	分野	意見・提案	対応の方向性
田畑委員	農業	就農を専業でなく初めから兼業という施策を市が打てばよい。DXとは価値観を転換していくこと。田んぼでどの位コメが取れるかだったのが、人がどう効率よく付加価値を生み出していくか。DX導入によりずれていく価値観を見極める必要がある。	兼業・副業により解決する視点が必要。また、DXにより付加価値を生み出す視点の転換が必要
西尾会長	農業	副業的に人を確保していくのが現代的で大事と思われる。	
高井委員	農業	農地は耕作できない所有者が土地を手放さないのが問題。今は転換点にいる。農業に対する固定概念が強すぎて転換ができない。	
田畑委員	健康・長寿	福祉の場合であれば、人がいないのであれば、どのように効率を最大化していくかを考えないといけない。	
水田委員	産業	商工会議所で創業塾を開催しているが、補助要件には週5日以上営業があったりする。起業も2つを掛け持つ時代になってきたのだと思う。	
木南委員	協議会	課題解決に向けた議論を一つ一つ考えていく場が、今後設置されていくワーキンググループ(WG)だと思っている。優先的に取り組むべき課題を2~4に絞って議論していくことが大事。	組織の主な事業としてのWGの中で議論・検討

発言者	分野	意見・提案	対応の方向性
水田委員	産業	デジタル化フェアについて、商工会議所としては会員企業に対してITツールのニーズ把握や導入後のフォローアップを考えている。	普及啓発・交流事業の先行事業として実施する「デジタル化フェア」により、企業のIT化、業務の標準化を促進
宮本委員	産業	市内の各事業者はITツールをすでに導入しているのではないかと。スマートシティの話の中に見本市のようなものは少し違うのではないかと。本会議では事業のDXの生の声が聞こえることを望む。	
西尾会長	産業	次年度に協議会が立ち上がり、いくつかのワーキンググループが動くのが理想。デジタルデバイドを越えていく基盤としてフェアがあるという建付けは良いと思う。	
西村委員	産業	当社はIT化を内製化してすでに進んでいる。ただ、加西市では特殊な方。困っている企業は市内にたくさんある。フェアでの情報発信は参考になると思われる。	
藤中委員	産業	何をやったらいいかわからない企業も多く、フェアで入り口を広げられるとよいと考える。また高齢化が進んでいるので、属人的な部分を標準化できれば次の世代に渡していける。	
西尾会長	協議会	様々な議論の中で、農業の話は広がりがあると思われ、介護や教育も引き続き議論が必要。本日の会議で課題が顕在化した。	

## 加西市総合計画との関連性



# 課題とデジタル技術活用による解決の関係図



## (2) スマートシティ推進組織のあり方

# 意見・提案から見えた目指す姿(案)

## 主な意見・提案

人口減少によるまちの活力の低下、様々なサービスや事業の継続困難

介護現場の労働力の不足

通学の不便さ

企業内の人材の高齢化

学校・教育の選択肢の少なさ

介護施設への入所希望者の  
過多

高齢者が買い物に行く手段の  
無さ

農業に対する悪い固定概念か  
ら来る担い手不足

独居老人と家族間の緊急連  
絡手段の不足

働く場の給与の低さ

高齢になるにつれ高まる  
将来への不安

交通手段の減少と  
コミュニティの縮小

様々な分野での人手不足、  
後継者不足

働く場所や教育の選択肢等に  
起因する若い世代の流出

## ビジョン(目指す姿)

必要とする人が介護等の十分  
な支援を受けられる

誰もが好きな時に  
好きな場所に行ける

若い世代が  
新しい次の産業を担っていく

質の高い多様な教育が  
受けられる

# ビジョンに向けた課題解決アプローチの展開図(案)

## ビジョン(目指す姿)

必要とする人が介護等の十分な支援を受けられる

誰もが好きな時に好きな場所に行ける

若い世代が新しい次の産業を担っていく

質の高い多様な教育が受けられる

安心して住み続けられるまち

若い世代が住みたい活力のあるまち

## 現状とのギャップ(主な課題)

人口減少によるまちの活力の低下、様々なサービスや事業の継続困難

高齢になるにつれ高まる将来への不安

交通手段の減少とコミュニティの縮小

様々な分野での人手不足、後継者不足

働く場所や教育の選択肢等に起因する若い世代の流出

## 施策の方向性

暮らしを支える

安心で健康な暮らし

地域でつながる

移動の確保と居場所づくり

自分らしく活躍する

イノベーションと仕事の満足

次世代につなぎ育む

子育てと教育の充実

## 取組10分野

健幸づくり(健康・長寿)

行政DX(行政・自治)

地産地消 エネルギー

モビリティ・物流改革

地域貢献活動の活性化

新しい地域経済の循環(産業)

スマート農業

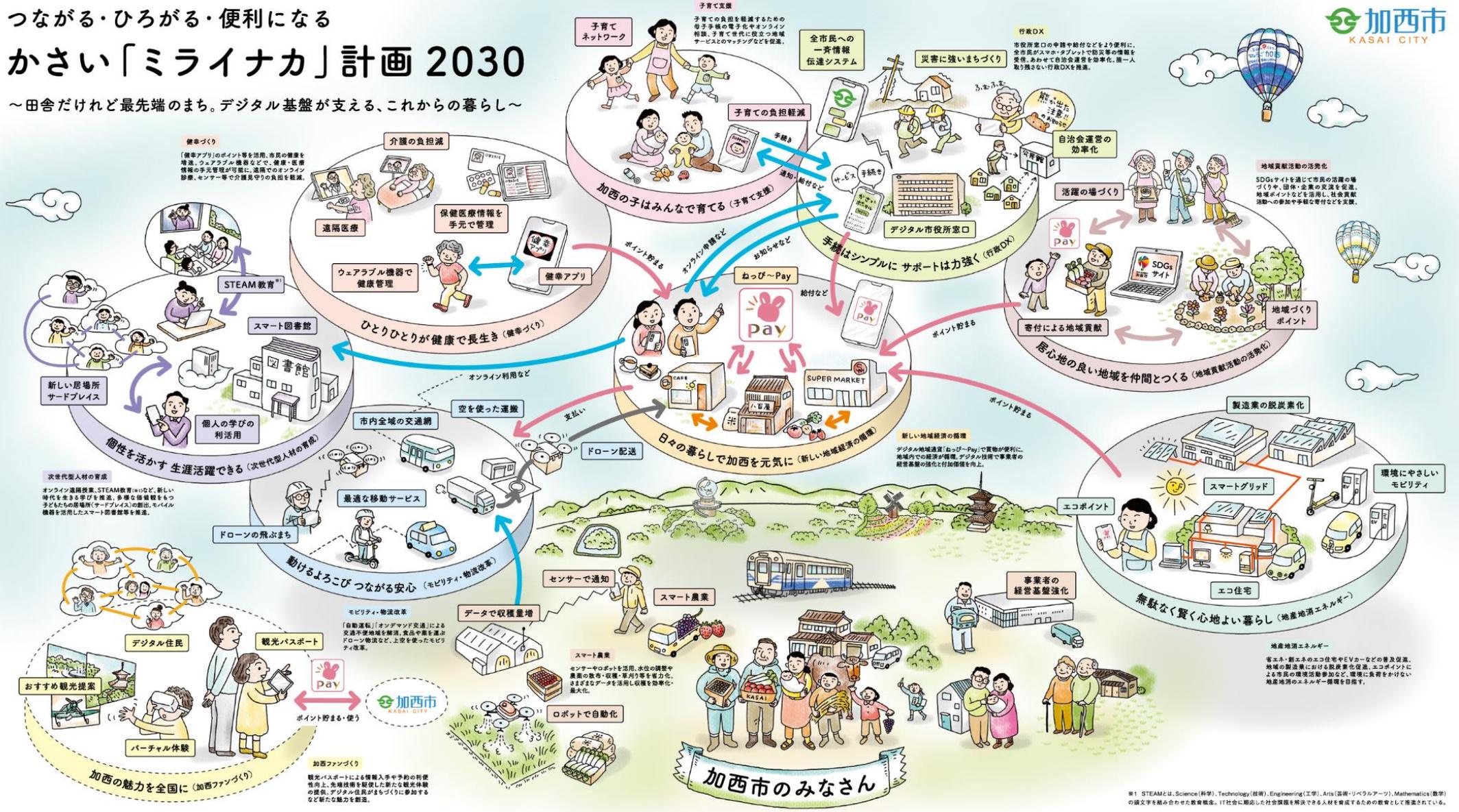
加西ファンづくり(観光)

子育て支援

次世代型人材の育成(教育)

# 目指すビジョンと取組分野のイメージ

つながる・ひろがる・便利になる  
 かせい「ミライナカ」計画 2030  
 ~田舎だけれど最先端のまち。デジタル基盤が支える、これからの暮らし~



※1 STEAMとは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・文化)、Mathematics(数学)の頭文字を組み合わせた教育概念。IT社会に開いた社会課題を解決する人材を育成するための教育として推進されている。

## ①調査研究・実証事業

デジタル技術を活用し地域の課題解決を図るための調査研究・実証に関する事業。

- ・実証事業の推進
- ・地域課題とサービス企業・大学とのマッチング
- ・サービスの企画立案、ニーズ把握
- ・評価検証

## ②普及啓発・交流事業

デジタル技術の活用推進の普及啓発・交流に関する事業。

- ・セミナーやイベントの開催
- ・地域企業のDX戦略等の策定、実行支援
- ・地域企業や関係団体の巻込・連携事業の創出
- ・ホームページやSNSなどによる情報発信
- ・利用者に向けたデジタルデバйд対策

## ③人材育成事業

地域の企業・団体等のデジタル化に貢献する人材育成に関する事業。

- ・DX人材育成研修
- ・大学等との連携による次世代人材育成

## ④システム管理運営事業

データ利活用の促進のためのシステム管理運営に関する事業。

- ・データ連携基盤の管理・運営、機能追加
- ・データ利活用構想立案・実践
- ・ビジネスモデル・自走スキームの具現化
- ・広域連携に向けた渉外活動

## 実証事業の推進 <施策の方向性と実証事業の例>

### 暮らしを支える

安心で健康な暮らし

- 健康寿命を延ばすための新しい仕掛け
- 高齢者の見守り手段の多様化

### 地域でつながる

移動の確保と居場所づくり

- 新しい買い物宅配サービスの検討
- 交通の不便さ解消のためのオンデマンド交通の検討

### 自分らしく活躍する

イノベーションと仕事の満足

- 地域通貨の利用拡大
- ねっぴ〜Payポイントの自治会、学校、ボランティアへの活用拡大
- IT分野の起業を促進するための仕掛けやコミュニティ形成
- 自由に兼業、副業ができる風土と環境の整備

### 次世代につなぎ育む

子育てと教育の充実

- 教育の質を高めるためのSTEAM教育の新プログラム

## セミナーやイベントの開催

「デジタル化フェア」開催による企業のデジタル化・DXの促進

第1回 **中小企業対象**  
**デジタル化フェア** 開催日 2025/2/20 (木)

**出展者募集**  
出展料無料

加西市中心部にある当会場にて、事業者・事業者向けに生産性向上や業務効率化などに役立つITツール・サービスの展示・紹介をする出展事業者を募集します。

**1 開催概要**  
日時 2025年2月20日(木) 13:00~17:00  
場所 アステアかさい3F地域交流センター  
(兵庫県加西市北条町北条28-1 北条町駅向い)

**2 出展募集テーマ**  
デジタル化が進んでいない、ホームページ制作・メンテが行き届かない中小企業者が主な参加予定者となり、次のような出展テーマを募集しています。

(1) 売上を伸ばすデジタル化  
・名刺管理や営業履歴の一元管理  
・ホームページ作成支援  
・BtoBマッチング支援 など

(2) 無駄を削減するデジタル化  
・電帳法とインボイス対応の電子請求書発行システム  
・電子契約  
・業務効率化簡易ソフト(ローコードツール等)  
・社内情報共有ツール

(3) 人材確保のためのデジタル化  
・事業承継支援  
・人材募集情報発信支援サービス  
・社内デジタル人材養成プログラム提供サービス など

会場アクセス  
QRコード  
会場イメージ

ミニセミナー・個別相談  
・展示各社によるミニセミナーを開催予定  
・個別相談スペース有

主催:加西市スマートシティ推進会議 協力:加西市産業活性化センター、加西商工会議所  
問合せ:(事務局)加西市政策情報課 TEL 0790-42-8703 メール joh@city.kasai.lg.jp

地域企業や関係団体の  
巻込・連携事業の創出

## DX人材育成研修

テレワークセンター「アスも」での定期的なワークショップやミーティング・人材育成講座の開催の検討。



利用者に向けたデジタル  
デバйд対策

スマホ教室の開催や、指導者(スマホサポーター等)の育成の検討。



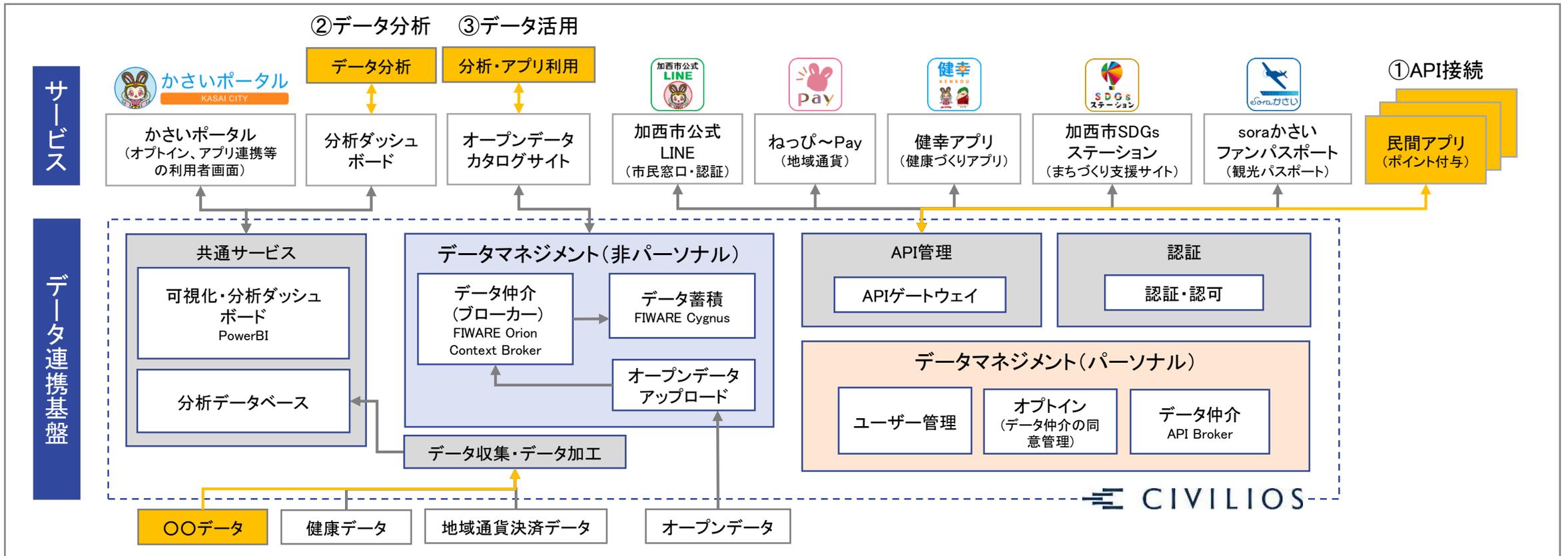
# ④ システム管理運営事業(例)

## データ連携基盤の管理・運営、機能追加

- 民間アプリと接続したポイント連携機能の追加(①API接続)

## データ利活用構想立案・実践

- ダッシュボードを活用した、ねっぴ~Payの店舗別売上分析や、健幸アプリの歩数・健康情報解析など(②データ分析)
- 自治体を持つ人口動態や地図情報などのオープンデータの活用(③データ活用)



## (3) スマートシティ推進組織の概要

## 設立目的

加西市を舞台に最新のデジタル技術を公民が連携し協創のもと効果的に活用することにより、地域課題を解決するとともに、活力ある豊かな市民生活を実感できるサステナブル・スマートシティを具体化することを目的とします。

## 活動の基本方針

### ①協創

デジタル技術の活用にあたり、公民連携によって市民、企業・団体、行政、大学等が持つノウハウと経験を結集して、協創することで地域のポテンシャルを引き出します。

### ②イノベーション

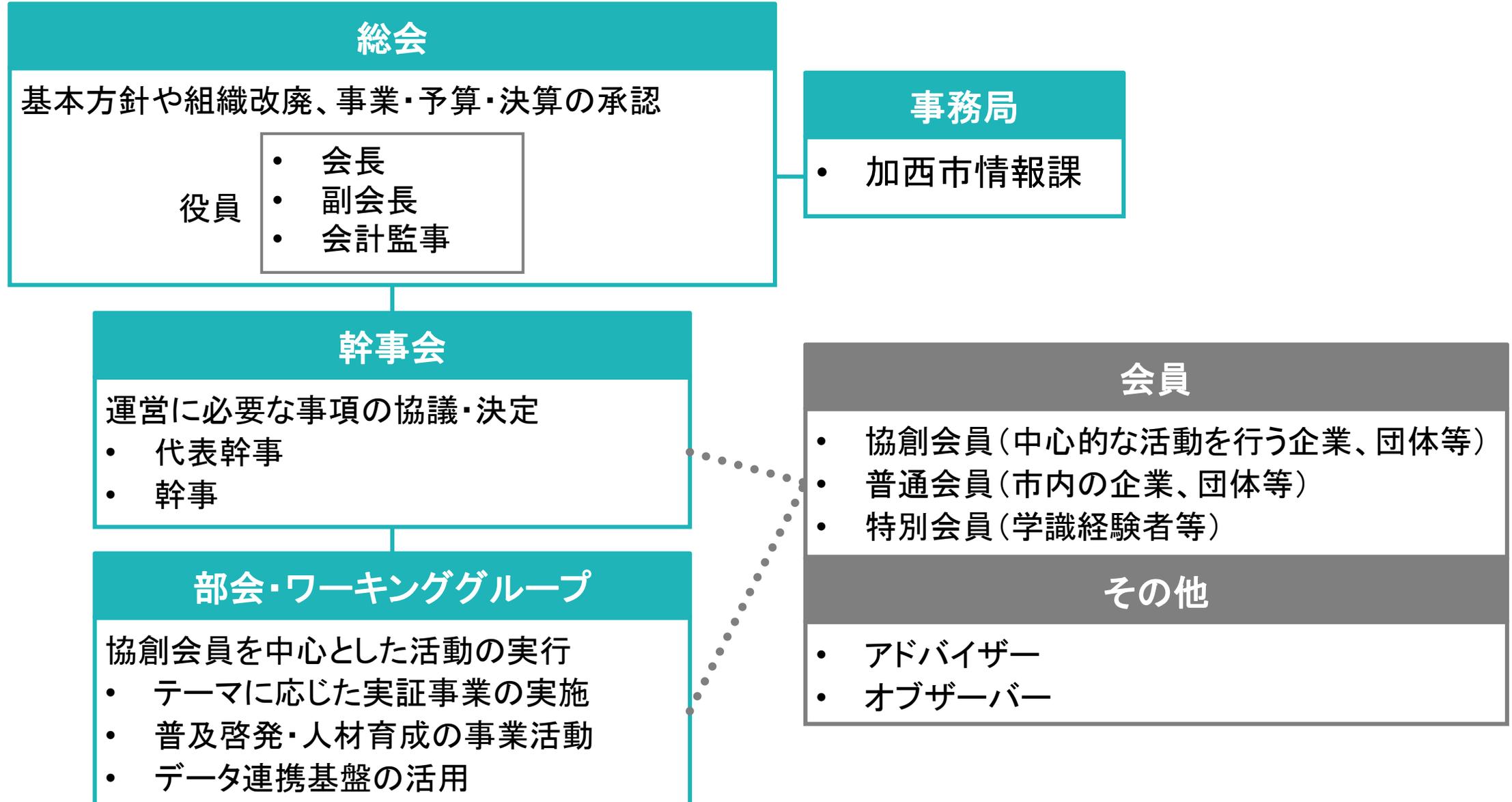
地域に相応しい課題解決と新たな活力創造のため、デジタル分野の国内外の新たな試みや新技術を積極的に取り入れ、モデルとなる革新的な取組の挑戦を続けます。

### ③データ活用とプライバシーの保護

収集・蓄積されたデータを活用しサービスの創出に結びつけるとともに、利用者同意のもとプライバシー保護と情報セキュリティ対策に努めます。

### ④持続可能性

事業や情報サービスの展開にあたっては、運用面と財政面の両面から持続可能性の確保に配慮します。



## 2024～2025年

スマートシティ推進会議  
(推進協議会の設立準備)

協議会設立に向けた  
準備フェーズ

- 計画の展開に求められる方策の検討(調査研究・実証、発信・啓発、交流、人材育成など)
- データ連携基盤の利用促進・活用拡大の検討
- 推進に必要な事業や体制の検討

## 2026年

スマートシティ推進協議会  
(設立)

事業を具体化をする為の  
実証フェーズ

- 地域課題解決、生活利便性向上を目指す情報サービスの調査研究・実証の具体化
- 普及啓発、交流事業の実施
- 地域企業、団体などのデジタル人材の育成
- データ連携基盤の管理運営と共同利用の模索

## 2027年

スマートシティ推進協議会  
(事業拡大)

具体的な施策の  
拡大フェーズ

- 調査研究や実証事業の拡大と実装
- 普及啓発と交流事業の活発化
- デジタル人材の育成強化
- データ連携基盤の拡充と共同利用の実現
- デジタルサービス拡大のための企画運営

## 2028年～

スマートシティ推進協議会  
(協議会自走)

サステナブル・スマートシティ実現に向けての  
安定成長フェーズ

- 協議会の収支安定化に伴う継続的な事業拡大
- 調査研究・実証事業の拡大と実装の定着
- 普及啓発、交流事業の拡大と定着
- デジタル人材の育成と活躍の場の提供
- データ連携基盤の拡充と更なる連携による拡大

実証事業等における参画企業間の「協調領域」を定義し、協議会が運営するインフラ領域の基盤・データを活用しながら連携を推進していく。

個社の事業を  
普及促進

- 各社が提供するサービス、製品の開発
- 各社の有する独自の知財やデータとインフラ・協調領域の成果を活用
- データ連携基盤に蓄積したデータの二次利用

参画企業等が  
連携して実施

- 実証事業として取り組むサービスの開発
- 市民のオプトインを通じて蓄積したデータの共有、活用

協議会が基盤  
運営

- データ連携基盤の運営
- 市民に紐づく共通IDの管理

競争領域

協調領域

インフラ領域